

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 2月 25日

事業所名 放課後等デイサービス事業所はやま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		・日によって児発管が調整している ・利用児数が少ないときは基準を下回らない範囲で職員を減らすなどしている	・兼務職員が在籍しているため兼務事業所と調整を図っています。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	・スロープ・手すりが不足している ・整備途中の段階 ・入口に小さな段差あり	・間口の狭い出入口やスロープのない出入口もありますが、出入口を変更しスロープの設置や乗降りのし易い構造を検討中です。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	・振り返りができないときがある ・専任者を増やしていれば良いかと思う ・ミーティングの際のケース検討やヒヤリハットを活用している	・兼務職員が常駐しているわけではないので、個別の支援記録や振り返り様式を確認してもらい業務に参画してもらっていますが、より専門的な支援を確立するために専従の職員を配置する等検討します。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者からの要望はアンケートにて実施しているが、兼務職員に結果が共有されにくいと感じる ・9月にアンケートを実施し改善に努めるが、コロナウィルスの影響で実施できない部分もあった	・9月におこなったアンケートについてはホームページ上で公開しましたが、さらに会議等でも共有を図ります。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			今回の自己評価については令和4年度2月中旬に更生会HPにて公表する予定です。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		前向きに検討させていただきます。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・職員会議後の内部研修をおこなっている	月に1度職員会議の後に資質向上のための勉強会を実施しています。今後も引き続き実施します。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			放課後等デイサービスのガイドラインによると標準化されたアセスメントツールとして『Vineland-II 適応行動評価尺度』が挙げられていますが現在専門的知識を有した職員がおらず、採用に至っておりません。今後は外部委託等も検討いたします。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・専任者を増やしていれば良いかと思う ・リーダーがひとりで計画している	・リーダー(子供たち全体に指示を出す役割)職員の負担を考慮し、常勤専従の職員については検討をします。
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・今後の目標があると思う。安全面のバランスをとる必要あり ・日々日家で“ねらい”を設定して活動をおこなっている	・それぞれの支援計画に基づいて日々の日案をプログラムしていますが、必要に応じて月案などの様式も採用します。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○			・集団活動においては日々実施できていますが、個別活動については活動プログラムとして実施できておりません。今後人員配置等の改善により実施が期待できます。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・平日は活動前に、休校日は前日に連絡している ・共有する時間が取れるときと、取れないときがある	・職員間でミーティングを行います。今日の活動内容や留意事項、前日の支援における反省点などを共有します。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	・送迎などで時間に余裕がない ・共有ができていないときがある ・シフト的に難しい ・翌日のミーティングの際に共有している ・支援開始前に振り返りをしている。終了後に集まる時間がとれない	・活動終了後には、送迎や勤務時間の関係で職員が集まってミーティングする時間がありません。そのため上記の活動開始前に前日の振り返りを行うことで終了後ミーティングに振り替えています。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			・記録に関しては会議などで周知徹底しておりますが、職員の中には不十分に感じる職員もいるようなので改善に努めます。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			・活動提供のプロセスを職員全員が理解していないようなので、会議等で周知します。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			・ガイドラインの内容を個別支援計画に盛り込んで作成しています。内容について理解が不十分な職員がいるようなので改善に努めます。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 25日

事業所名 放課後等デイサービス事業所はやま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			・コロナ禍で集合会議が難しい状況です。今後は会議に適当な人員を招集し会議を行います。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・改善してきたと思う。先生方も顔を覚えてくれていると感じる	・下校時には顔の見える関係を意識して教職員に学校での様子やはやままでの様子を共有できるようにしています。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	対象なし	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	・コロナ禍での実施が難しい	・コロナウィルスの感染状況をみつつ前向きに検討します。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	・コロナ禍での実施が難しい ・コロナ禍での実施(交流会のあり方)について検討する必要がある	・年間計画に盛り込んでいましたが、コロナウィルスの影響で実施を見送りました。今後も交流の機会を設けます。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・まだ参加機会が与えられていない ・管理職が出席している	・今年度児発管、専従の保育士が、南九州市自立支援協議会こども部会に出席しました。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ペアレントトレーニングをおこなっていない為今後の課題であると感じる	・より専門的な立場としてペアレントトレーニングについては研修等を受講し支援に活かしていけるよう検討します。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・保護者には契約の際や、見学に来られた際に説明しています。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・今後一層保護者の相談に幅広く対応する必要がありますので、対応力の向上に努めます。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・数家族を対象に、待ち合わせ場所に送り届けることで家族が集まる機会を作る ・コロナ禍での実施が難しい状況だが、地域の感染状況をみて親子ピクニックの開催をおこなう事ができた	・コロナウィルスの影響で十分に保護者会を開催できていないのが現状です。今後は保護者交流が活発にできるよう画策します。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			・年に2回会報を発行しています。
	35 個人情報に十分注意している	○			
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		コロナ禍での実施が難しい	・常に地域の目に触れながら、事業運営を行っています。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			・事故防止、感染防止については対応マニュアルを策定しましたが、保護者に向けては説明しておりませんので、説明の機会を設けます。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・防火防犯訓練を実施	・今年度火災想定避難訓練を1回、不審者対応の避難訓練を1回、計2回の避難訓練を実施しました。来年度も実施する見込みです。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			・毎月の職員会議では虐待防止について職員から意見があげられます。職員の技術力向上のため会議の後に研修会を設けています。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記	○		・対象者なし	・今年度対象の児童はいませんでした。組織的な取り組みについては引き続き行っていきます。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 25日

事業所名 放課後等デイサービス事業所はやま

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
応	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	・対象者なし	・今年度食物アレルギーを持つ児童の利用はありませんでしたが、アレルギーのある方については利用前に食事箋の提出をお願いしています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			・ヒヤリハットは職員全員が見やすい位置にファイリングし、いつでも提出することができるようになっています。また対応策についても共有しています。